

## 【学生フォーラム】

### ものけん宣言！

### ものづくり研究会のこれまでの活動とこれから

#### 人間環境大学 ものづくり研究会

#### 【要旨】

我々ものづくり研究会(以下ものけん)は「伝統的ものづくり」を研究する団体で、2004年10月に発足しました。昨年の学生フォーラムでは「ものづくりが生きるまち」という題目で、西三河における職人、技術、原料、流通などに見いだされる地域のつながり(ネットワーク)について発表しました。今回は、当時計画段階であった愛知万博での催事の報告を含めて、「これまでのものけん」の活動と、「これからのものけん」の活動指針および具体的な活動方針を発表したいと思います。

#### 1. ものけん発足の説明

ものけん発足は昨年の愛知万博に由来しています。万博の市民プロジェクトの一環としてグリーンマップ(以下GM)の活動があり、西三河12市・町のGM作成に参画することを目的に発足したのがはじまりです。GMとは地域の特徴を再発見するために住民自身が作成する地図で、地域の環境を見つめるコミュニティづくりのツールです。西三河GMでは、西三河に今も息づく様々な「伝統的ものづくり」に着目してマップを作成することになり、我々ものけんはその実行部隊として発足しました。

#### 2. これまでのものけん

##### (1) 活動内容

初期ものけんの活動は大きく2つに分けられます。

ひとつは西三河各地の職人さんを訪ね、技や工房を見せていただき、お話を聞かせてもらう「取材活動」。以下のように12市町のものづくりを取材させていただきました。

|                                      |                               |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 2004.10 佐久島 黒壁とアートのまち<br>船大工         | 2005.04 額田 茅葺屋敷               |
| 2004.11 高浜 鬼板師(鬼瓦)                   | 2005.04 岡崎 岡崎石工団地<br>岩津天満宮    |
| 2004.11 高浜 愛知県陶器瓦工業組合                | 2005.05 刈谷 小堤西池のカキツバタ<br>を守る会 |
| 2004.12 碧南 おぼこ屋(土人形)                 | 2005.05 安城 安城市歴史博物館<br>桜井胤保存会 |
| 2005.02 西尾 あいや(抹茶)                   | 2005.06 知立 愛知屋総本店(仏壇)         |
| 2005.02 吉良 吉田漁業協同組合                  |                               |
| 2005.03 幡豆 木下漁網<br>山崎合資会社<br>(日本酒醸造) |                               |

2005.06[番外編]豊田・百々貯木場  
豊田市郷土資料館

2005.06 幸田 芦屋煙火愛好会  
2005.07 岡崎 平林仏壇店(仏壇宮殿師)

そして、もうひとつの活動は取材内容を西三河GMのHPや万博催事などのかたちにして公開し、伝えてゆくことです。万博ではGMパネルの展示やモリゾーとキッコ口の土人形をお客さんに彩色してもらおうワークショップを行い、好評を博しました。このワークショップでは、お客さんに西三河のものづくりを知ってもらうことを目的に、碧南で取材した伝統的な土人形を再現したのですが、その際、原型作成は鬼瓦職人の「鬼栄」さん、材料の土は同じく「鬼源」さんからお分けいただきました。

## (2) 西三河GM任務完了

西三河GMの活動自体は2004年の10月に始まり、2005年の9月までの約1年間という短い期間でしたが、多くの「ものづくり」の現場を取材し、その度に日常生活では知ることのできない素晴らしい職人の世界と出会いました。万博をきっかけに発足したものけんも、閉幕とともに任務を終え、活動が一段落しました。しかし、様々な経験や視点を得ることのできるこの活動を続けたい、まだ見ぬ職人さんを取材したい、という思いから活動の発展的継続を決めました。そして、心機一転、GMとは別の、自分たちにしかできない、意義のある新たな活動を行うことを目指し、連日会議を開きました。

また、ものづくり研究の先輩ともいえる岡崎の郷土史家さんや、静岡の郷土玩具収集家集団「日本ゆきだるまの会」さん取材し、活動の参考にさせていただきました。

こうして暗中模索する中で、新しいものけんの在り方・活動方針が見えてきました。

## 3. これからのものけん

### (1) 指針 なぜ今ものづくりを見つめ研究するのか

世界的に見ても高い美意識と伝統を有している日本。しかし、生活に関わる多くの品々を海外生産に頼っているのが現状で、日本の伝統的ものづくりや文化、習慣は形を変え続けている。そして私たちの時代で絶えてしまうものづくりもあるはず。この時代に生まれた私たちは、ものづくりの変容を目撃しています。そんな私たちができることは、今現在の職人の姿を記録して残していくこと。そして今を生きる人たちにも呼びかけていくことではないかと考えました。そこで2つの指針を掲げます。

まずひとつ目は、伝統的ものづくりや、それに関わる文化・風習を記録すること。絶えてしまったとしても、後世の人々により伝わりやすいよう、職人と文化を詳細に記録していくこと。もちろん、その記録には「ものけんというフィルター」がかかることは避けられません。そのことに注意しつつ、またむしろ我々が積極的に職人さんに語りかけることで、職人さんの人柄、個性に重点を置きながら、職人の「語り」を採集していきたいと思えます。

そしてもうひとつの指針は、私たちの感じたことや、伝えなければいけないと思ったことを発信していくこと。取材や文献整理などを通して生まれる私たちの熱い思い、それを伝えることで、ものづくりの現状にあまり関心のなかった人たちにも呼びかけていきます。また現代の価値観・風潮のなかにいる私たちの声は、数十年後「当時の声」としての価値がでてくるものでもある筈です。更には私たちものけんの活動によって誰かに刺激を与えることができれば、と考えています。

## (2) 具体的活動方針

今後は大学所在地でもある岡崎を中心に活動していきます。岡崎には多くの伝統的ものづくりと文化が根付いており、八丁味噌や石工技術、それ以外にも仏壇、祭りの山車、提灯など枚挙に暇がありません。今期のものけんでは、そのなかでもとくに関心の高い「祭」と「食」にスポットを当て、ものづくりを研究していきます。

具体例として、「祭」では神明宮大祭の山車。それだけに止まらず、彫刻、鋳金具にも着目します。「食」では八丁味噌、そして味噌を作る上で欠くことのできない道具にまで視野を広げ、より深い取材を予定しています。

矢作川という運搬経路を持って発達した城下町岡崎。ものけんはその魅力を再発見し、記録・発信に努め、必要があれば岡崎市外にも足を運びます。

そしてその取材から得た情報は、「ものけんHP」、「ものけんぶろぐ」、『岡崎商工会議所会報』を中心に発信します。HPでは取材で得た職人さんの生の声を届けます。「会報」やブログでは、ものけんメンバー個人の視点から、感じたことを伝えていきます。今月発行の『会報』3月号から連載させていただけることになりました。また、いちばんディープな岡崎本『リバーシブル』にも近く掲載させていただく予定です。

## 4. ものけん宣言

今後もものけん一同、知的探究心のもとアグレッシブ且つエキサイティングな取材と記録・発信をしていくことを、ここに宣言致します！今後のものけん活動にご期待ください！